～石斧発見から世界遺産登録まで～

大平山元遺跡と北海道・北東北の縄文遺跡群の取組み

西暦	和暦	大平山元遺跡	縄文遺跡群世界遺産
1971	昭和46	石斧の発見	
1972	昭和47		国連において世界遺産条約が採択される
1975	昭和50	県立郷土館大平山元Ⅰ遺跡の学術調査	
1976	昭和51		
1977	昭和52	県立郷土館大平山元Ⅱ遺跡の学術調査	
1978	昭和53		
1979	昭和54	県立郷土館大平山元Ⅲ遺跡の学術調査	
1989	平成元	町教育委員会 大平山元Ⅱ遺跡の発掘調査	
1992	平成4		世界遺産条約に日本が締結する
1998	平成10	調査団 大平山元Ⅰ遺跡の発掘調査	
2000	平成12	町教育委員会 大平山元Ⅰ遺跡の学術調査（12～16） 町教育委員会 大平山元Ⅱ遺跡の発掘調査（15～18） 県教育委員会 大平山元Ⅱ遺跡の発掘調査（15） 町教育委員会 大平山元Ⅱ･Ⅲ遺跡他の学術調査（18～20） 大山ふるさと資料館開館（13）	
2001	平成13		
2002	平成14		
2003	平成15		
2004	平成16		
2005	平成17		
2006	平成18		
2007	平成19		外ヶ浜町が縄文遺跡群の共同提案に参加する
2008	平成20		暫定一覧表への記載が決定
2009	平成21		暫定一覧表へ記載される 構成資産は15
2010	平成22		
2011	平成23	総括報告書の刊行	
2012	平成24	意見具申書の提出、文化審議会答申	構成資産を15から18へ増やす
2013	平成25	史跡指定（名称：大平山元遺跡）	
2014	平成26	追加指定の意見具申書　公有地化事業開始	
2015	平成27	文化審議会答申、追加指定	構成資産を18から16へ減らす
2016	平成28	保存管理計画書刊行	構成資産のひとつを分け16から17へ
2017	平成29	整備基本構想策定	
2018	平成30	整備基本計画策定	推薦候補に選定　自然遺産を優先する
2019	令和元	第1期整備基本設計 県重宝指定（Ⅰ遺跡郷土館・調査団）	推薦候補に選定
2020	令和2	第1期整備工事開始	推薦書をユネスコへ提出 イコモスの現地視察
2021	令和3	遺跡広場駐車場完成	イコモス勧告 記載決定

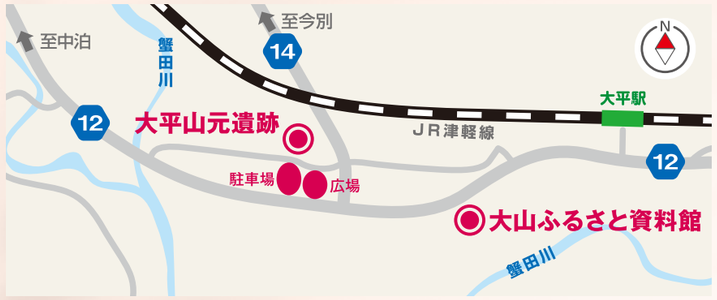
※構成資産
北海道:キウス周堤墓群（千歳市）、北黄金貝塚（伊達市）、入江貝塚（洞爺湖町）、高砂貝塚（洞爺湖町）、大船遺跡（函館市）、垣ノ島遺跡（函館市）
青森県:三内丸山遺跡（青森市）、小牧野遺跡（青森市）、是川石器時代遺跡（八戸市）、大森勝山遺跡（弘前市）、亀ヶ岡石器時代遺跡（つがる市）、田小屋野貝塚（つがる市）、大平山元遺跡（外ヶ浜町）、二ツ森貝塚（七戸町）
秋田県：大湯環状列石（鹿角市）、伊勢堂岱遺跡（北秋田市）　　岩手県：御所野遺跡（一戸町）
【関連資産】北海道：鷲の木遺跡（森町）、青森県：長七谷地貝塚（八戸市）

所在地情報

大平山元遺跡（連絡先は外ヶ浜町教育委員会）
青森県東津軽郡外ヶ浜町字蟹田大平山元
電話：0174-31-1233　FAX：0174-31-1234
メール：kyouiku-sotogahama@town.sotogahama.lg.jp

大山ふるさと資料館
青森県東津軽郡外ヶ浜町字蟹田大平沢辺34-3
電話・FAX：0174-22-2577

アクセス
・ＪＲ津軽線大平駅から徒歩５分
・北海道新幹線奥津軽いまべつ駅から車で15分
・青森空港から車で60分
・東北自動車道青森ICから車で45分



北海道・北東北の縄文遺跡群　世界遺産登録記念リーフレット

～縄文時代の始まりを示す遺跡～

史跡 大平山元遺跡（おおだいやまもと）

青森県外ヶ浜町

2020（令和2）年撮影
令和2年度 整備工事完成写真（3ヵ年の1年目）

国史跡「大平山元遺跡」とは

列島各地との関係性を示す石器が多く見つかる希少な遺跡

国史跡「大平山元遺跡」は、石器の材料となる岩石（珪質頁岩）が採取できる蟹田川の近くにあります。後期旧石器時代後半期から縄文時代草創期まで、石器などの特徴の移り変わりを追うことができる遺跡です。

旧石器時代の石器などの特徴では、主に関東地方や中部地方で見られる石器、北海道で流行した石器、西日本との関係がある石器などが見つかっています。これらのような日本列島各地との関係性を示す石器が多く見つかる遺跡は、北日本では他に例がありません。縄文時代草創期では、無文土器片が見つかり、石鏃（矢じり）や大型の石刃（ナイフの素材）のまとまりなどがあります。

「１万５千年以上前の土器片」縄文時代という新しい時代へ

北海道・北東北の縄文遺跡群の関わりについては、史跡の本質的な価値のなかでは、道具の移り変わり、土器を生み出し、年代が判明しているところが大切です。年代は、土器片に付着していた炭化物を分析し、今から約１万５千年以上前に使われことがわかっています。煮炊きに使った土器がみつかり、定住のめばえがわかる遺跡です。弓矢も使われはじめ、縄文時代という新しい時代へ変わっていく様子がわかります。

「縄文遺跡群」１万年以上にわたる定住の発展と成熟

北海道・北東北の縄文遺跡群は、採集・漁労・狩猟を生業に１万年以上も続いた人々のくらしや精神文化を今に伝える貴重な文化遺産です。日本列島北部では、ブナ・クリ・クルミなどの森林資源や暖流・寒流が交わる海域が育んだ水産資源を背景に、今から約１万５千年前に定住がはじまりました。その後、１万年以上にわたり農耕に移行することなく、採集・漁労・狩猟による定住を発展・成熟させました。この間、精緻で複雑な精神文化も育まれ、環状列石や周堤墓などの祭祀・儀礼の場も充実しました。１７の遺跡で構成されており、６つのステージ、定住の開始（１居住地の形成２集落の成立）定住の発展（３集落施設の多様化４拠点集落の出現）定住の成熟（５共同祭祀場と墓地の進出６祭祀場と墓地の分離）にわけられ、大平山元遺跡は、その最初のステージに位置づけられています。

拾われた
神子柴型石斧

大平山元遺跡 ―史跡指定までのあゆみ―

中学生が拾った石器がきっかけで「無文土器片」が発見

大平山元遺跡は、1971（昭和 46）年、町内の中学生が拾った石器を契機に青森県立郷土館によって学術調査が実施されました。大平山元Ⅰ遺跡と名付けられ、拾われた石器が神子柴型石斧だったこともあって、担当者の三宅徹也氏の想定どおりに無文土器片が見つかり、神子柴・長者久保石器群に土器が伴うことを明らかにした考古学史上、重要な結果を示した調査でした。さらに、発掘調査中の住民の情報や踏査によって、大平山元Ⅱ遺跡、大平山元Ⅲ遺跡と遺跡が発見され、続けて学術調査が行われました。ナイフ形石器やいわゆる有樋尖頭器や舟底形の細石刃核等いくつかの石器群が確認されました。県内の旧石器時代解明をリードする大きな成果を得ることができました。

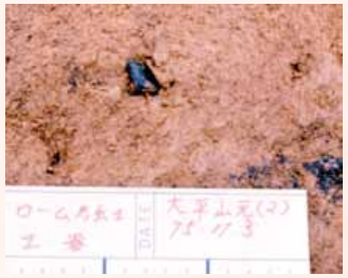
無文土器片

幾度の調査を経て国の「史跡」へ

また、大平山元Ⅱ遺跡は、地区会館の建替による発掘調査により、湧別技法による細石刃石器群の接合資料が見つかり、日本列島各地との関係を示す、北日本では他に例がない遺跡となりました。その後、住宅建設に伴って大平山元Ⅰ遺跡の発掘調査を調査団（団長谷口康浩氏：國學院大學文学部）が行い、土器に付着していた炭化物の年代測定を実施、較正年代を示し、その年代や土器の出現等について問題を提起しました。

続く町教委の学術調査により範囲や価値付けが行われ、大平山元Ⅰ遺跡の範囲全てと大平山元Ⅱ遺跡の一部の範囲が、大平山元遺跡として 2013（平成 25）年に国の史跡として指定されました。資料は、青森市の青森県立郷土館と外ヶ浜町大山ふるさと資料館で見ることができます。

なお、大平山元Ⅰ遺跡の資料は、郷土館学術調査と調査団発掘調査一式が、2019（平成 31）年４月に県重宝指定を受けています。



土器発見時の写真

※１ 神子柴型石斧…縄文時代はじめの頃の、全体の型は打製、刃の部分だけを研磨するなどの特徴的な石斧。長野県の神子柴遺跡から見つかった石斧に由来。
※２ 神子柴・長者久保石器群…縄文時代はじめの頃の神子柴型石斧や石刃素材のナイフ等を特徴とし、土器が伴うこともある。神子柴・長者久保文化とも言う。長野県の神子柴遺跡と青森県の長者久保遺跡に由来。
※３ 石刃…旧石器時代を特徴づける、長さが幅の倍以上あるもの。薄く短冊のような形で連続的に作る。割られて残った方は石刃核という
※４ 有樋尖頭器…旧石器時代の後半期の頃、主に両面を加工した石槍（尖頭器）の１側縁に沿った縦長の割れ（加工）を作るもの
※５ 細石刃…旧石器時代の終わり頃に発達し、各地で独特の作り方（製作技法）があるものの、長さ２、３センチ、幅１センチほどの小さな石刃を連続的に作る。割られて残った方を細石刃核という
※６ 湧別技法…細石刃の作り方の種類のひとつ。北海道北部を中心に本州まで広範囲に見つかる。両面を加工した石器の１側縁を側縁に沿って剥ぎ取るように割り、その割れ面から、短軸方向に向きを変え細石刃を連続的に作る。
※７ 較正年代…炭素を含む有機物の年代を測定する１４Ｃ年代測定値を暦の年代にプログラムを使って算出した年代。